

# 社会福祉法人リブリー グループホーム花みずき

## 第1回 地域連携推進会議 議事録

1. 日時: 令和8年1月22日(木)14:00~15:00

2. 場所: グループホーム花みずき リビング

### 3. 出席者

#### 【地域関係者】

J.S 様(地域の関係者)

S.S 様(福祉に知見のある方)

K.K 様(ご家族代表)

A.K 様(利用者代表)

#### 【事業所職員】

H.O(施設長)

T.S(主任)

M.S(サービス管理責任者)

K.M(リーダー)

### 4. 開会あいさつ・会議の趣旨

主任 T.S より開会のあいさつを行いました。

地域連携推進会議は、障害のある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、グループホームと地域の皆さま、関係者の方々が顔を合わせ、意見を交わすための場です。

グループホームは利用者の皆さまにとっては「生活の場」ですが、地域の方にとっては中の様子が見えにくい場所でもあります。

本会議では、

- ・どのような方が生活しているのか
- ・どのような思いで支援をしているのか
- ・地域の中でどのように暮らしているのか

をお伝えするとともに、

「こうしてもらえると安心」

「ここが少し気になる」

といった率直なご意見を伺いながら、いざという時に声をかけ合える関係づくりを大切にしていきたいことを説明しました。

その後、出席者の皆さまより自己紹介をいただきました。

## 5. 花みずきの概要と運営状況

花みずきは、

- ・男性寮「山ぼうし」定員 7 名
- ・女性寮「花みずき」定員 6 名
- ・ショートステイ 1 名

で運営しており、現在は満床となっています。主に知的障害および身体障害のある方が生活されています。

昨年度は数名の入退所がありましたが、大きな混乱はなく、皆さま落ち着いて日常生活を送られています。入退所は頻繁にあるわけではなく、私たちは「できる限りこのグループホームで安心して暮らし続けていただくこと」を大切にしています。日々の体調管理や見守りを丁寧に行い、住み慣れた環境で長く生活できるよう支援しています。

将来的に医療的支援がより必要になった場合や、継続して宿泊生活を送ることが難しくなった場合には、ご本人・ご家族の思いを大切にしながら、関係機関と連携し、その方にとって無理のない選択を一緒に考えていく方針であることをお伝えしました。

法人の歩みとしては、平成 23 年に「すばる」を開設し、平成 27 年に「グループホーム花みずき」を開設しました。

開設当初は地域の不安の声もありましたが、日々の積み重ねの中で少しずつ理解をいただけてきました。

今年度は初めてすばるを開放して「すばる手織りもの展」を開催予定であり、地域に開かれた事業所を目指していることも報告しました。

事業所より、運営状況についてもご報告しました。

資金収支計算書を示しながら、現在の利用率や収支の状況について説明を行いました。満床ではありますが、物価高騰や人件費の上昇等の影響もあり、運営状況は以前よりも厳しさを増している現状についてお伝えしました。

そのような状況の中でも、利用者の皆さまの生活の質を守ることを最優先に考え、安定した運営に努めていきたいことを共有しました。

また、過去に受審した第三者評価でいただいた改善点についても説明しました。

ホーム内の掲示物について、利用者向けと職員向けの情報を整理し、掲示場所を分ける工夫が望ましいとの指摘があり、現在は改善済みであることを報告しました。

さらに、紙書類の削減やデジタル化の推進についての助言もいただいております。現場の状況を踏まえながら今後検討を進めていく予定であることをお伝えしました。

## 6. 権利擁護・安全への取り組み

### (1) 虐待防止・権利擁護

利用者の権利擁護および虐待防止の取り組みについて説明を行いました。

虐待防止については、毎年担当職員が外部研修を受講し、その内容をスタッフ会議や法人内研修で共有しています。また、虐待防止・身体拘束適性委員会を年2回花みずきで開催し、助言をいただいております。事業所全体の意識として取り組むことを大切にしています。

### (2) ヒヤリハット・事故防止

日常生活の中での小さな気づきも記録し、毎月のスタッフ会議および常勤会で振り返りを行っています。重大な事故にならぬよう未然に防ぐことを目的としています。

最悪のケースも想定し、防止につながる姿勢を大切にしていることを事例と共に共有しました。

## 7. 日常生活の様子

現在の花みずきは、全体として落ち着いた生活が続いています。

- ・ご本人の意思決定に基づく生活への支援
- ・体調や気持ちの変化への早めの気づき
- ・排便状況の毎日の記録
- ・必要に応じた服薬調整
- ・夜の過ごし方の個別配慮

など、一人ひとりの生活リズムを尊重した支援を行っています。

清掃についても、

- ・居室・共有部の毎日の掃除機がけ、モップがけ
- ・トイレ・浴室の毎日清掃
- ・シーツ交換や洗濯はこまめに実施(ショートステイは都度交換)

を実施し、安心して過ごせる環境づくりに努めています。

その後、参加者の皆さまにユニット(花みずき・山ぼうし)の見学をしていただきました。

見学の中で、食事についての質問がありました。

調理は2棟分基本的に山ぼうしで行っていること、状況により各棟で調理する場合もあることを説明しました。

また、土日の朝の過ごし方についても質問があり、起床時間は利用者それぞれ異なること、多くの方は比較的早めに起床されること、体調や希望に応じて無理に起こすことはせず、ゆっくり休んでいただくこともあると説明しました。

居室内の備品についても質問があり、居室内の家具・家電については、利用者さんの好みに応じたものを用意してもらっていることを説明しました。

## 8. 意見交換

A.K 様(利用者代表)より、利用開始から11年目になること、当初は場所も分からず不安があったが、当時の施設長から「大丈夫ですよ」と声をかけてもらい、すばるで一緒だった仲間もいたことで安心できたことが語られました。

利用者の入れ替わりで心細さを感じた時期もあったが、退所された方が元気に過ごしていると聞き安心していること、現在は花みずきでの生活を楽しく送っているとお話がありました。

これに対し H.O 施設長より、これまで体調を崩された際もご家庭と連絡を取り合いながら対応し、生活を継続してこられたことを説明し、今後も急な体調の変化が起きた際には早めの対処が重要であり、対応できる体制づくりが必要であるとの話がありました。

K.K 様(ご家族代表)より、お子さまがショートステイを利用しており、大きな声を出すことがあり申し訳なく感じることもあるが、本人が利用をととても楽しみにしていること、それは安心して過ごせる場所だからだと感じているとお話がありました。

J.S 様(地域の関係者)より、一人ひとりの個性や生活を尊重した支援が行われている点が素晴らしいとの評価があり、利用者が健やかに過ごすためには支援者の笑顔が大切であるとのご意見をいただきました。

S.S 様(福祉に知見のある方)より、開設当初から存在は知っていたが実際に見学する機会は少なかったため、今回内部を見ることができて良かったとの感想がありました。

また、今後さらに支援が向上するように努力してほしいとのご意見や、ICTの活用が職員の負担軽減につながり、結果的に利用者支援の充実につながるのではないかとのお話をいただきました。

さらに、訪問医や訪問看護の導入についても情報提供があり、夜間一人体制時の安心・安全に繋がることや、服薬の一包化、爪切り・耳かき等の生活支援も受けられることなどの説明があり、今後の参考とさせていただくこととしました。

## 9. 今後に向けて

地域連携推進会議は、何かを決定する場というよりも、お互いを知り、理解し合い、支え合える関係を築く場だと考えています。

花みずきは、

「住み慣れた地域で、その人らしく暮らし続けたい」という思いに寄り添い続けるホームでありたいと思っています。

今後も地域の皆さまとともに、安心できる暮らしを支えていけるよう努めてまいります。

次回は令和8年度中に開催予定です。